

2. 自然条件、社会条件の収集整理

1) 収集資料

見沼田圃地域に関する自然条件、社会条件を整理するにあたり、表 2-1-1 に示す項目の情報を収集することを目的として、既往の現地調査結果報告書、土地利用、緑地の現況等の資料を収集した。収集した文献資料を表 2-1-2(1)～(3)に示す。

表 2-1-1 収集した項目

	項 目	収集資料等
自然条件	動植物	見沼田圃周辺における調査報告書、現存植生図、空中写真 等
社会条件	土地利用の現況	地形図、土地利用現況図、都市計画図 等
	法規制の状況	土地利用規制図、鳥獣保護区位置図 指定文化財地図 等
	緑地の分布	さいたま自然公園・緑マップ 等
	観光利用等	観光パンフレット、観光入込データ 等
	その他	県および市の長期計画、環境基本計画 等

表 2-1-2(1) 収集した文献資料一覧

対象地域	市町村名		収集年度
見沼田圃	さいたま市	見沼区、緑区、浦和区、大宮区、北区、	2009

収集文献 No.	文献名	著者名	発行年	発行元	入手先
1	1998年版埼玉県植物誌	伊藤 洋	1998.3.25	埼玉県教育委員会	埼玉県庁資料室
2	バードランドさいたま 埼玉の野鳥	財団法人 埼玉県野鳥の会	1998.3.25	第43回愛鳥週間「全国野鳥保護の集い」埼玉県実行委員会	埼玉県庁資料室
3	さいたま都市計画図		2009.4	さいたま市	さいたま市みどり推進課
4	さいたま市浦和地区図			さいたま市	さいたま市みどり推進課
5	さいたま市大宮地区図			さいたま市	さいたま市みどり推進課
6	さいたま市浦和地区図			さいたま市	さいたま市みどり推進課
7	さいたま市北地区図			さいたま市	さいたま市みどり推進課
8	さいたま市見沼地区図			さいたま市	さいたま市みどり推進課
9	さいたま市緑地区図			さいたま市	さいたま市みどり推進課
10	平成20年度 鳥獣保護区等位置図	埼玉県環境部自然保護課	2008	埼玉県	埼玉県庁資料室
11	都市局概要2009	さいたま市都市局都市計画部都市総務課	2009.3	さいたま市都市局都市計画部都市総務課	さいたま市みどり推進課
12	さいたま市公園緑地計画図	さいたま市都市公園課	2008.4.1	さいたま市	さいたま市みどり推進課
13	さいたま市総合振興計画	さいたま市政策局政策企画部企画調整課	2006.1	さいたま市	さいたま市みどり推進課
14	さいたま市総合振興計画・実施計画	さいたま市政策局政策企画部企画調整課	2006.3	さいたま市	さいたま市みどり推進課
15	さいたま市環境基本計画	さいたま市環境経済局環境部環境総務課	2004.1	さいたま市	さいたま市みどり推進課
16	さいたま市緑の基本計画	さいたま市都市局都市計画部みどり推進課	2007.3	さいたま市	さいたま市みどり推進課
17	さいたま市見沼田圃土地利用現況調査業務報告書	さいたま市	2008.3	さいたま市	さいたま市みどり推進課
18	さいたま市見沼田圃土地利用検討調査業務報告書	さいたま市	2009.3	さいたま市	さいたま市みどり推進課
19	さいたま市緑の基本計画緑地現況調査報告書	さいたま市都市計画部公園みどり課	2006.2	さいたま市都市計画部公園みどり課	さいたま市みどり推進課
20	見沼田圃周辺斜面林等保全基礎調査報告書	埼玉県自然環境保全基礎調査研究会	1984.3	埼玉県自然保護課	さいたま市みどり推進課
21	見沼田圃緑化調査報告書	見沼田圃土地利用連絡会議	1997.3	見沼田圃土地利用連絡会議	さいたま市みどり推進課
22	大宮植物ガイド	アジア航測株式会社	1992.4	大宮市建設局都市計画部みどり課	さいたま市みどり推進課
23	大宮動物ガイドー鳥・昆虫・哺乳類ー	アジア航測株式会社	1995.4	大宮市建設局都市計画部みどり課	さいたま市みどり推進課
24	大宮動物ガイドーは虫類・両生類・水生動物ー	アジア航測株式会社	1996.4	大宮市建設局都市計画部みどり課	さいたま市みどり推進課
25	大宮市植生調査報告書	大宮市	1992.3	大宮市	さいたま市みどり推進課
26	平成5年度 第1回大宮市動物等生息現況調査 調査報告書	大宮市 みどり課 アジア航測株式会社	1994.3	大宮市	さいたま市みどり推進課
27	平成6年度大宮市水生動物等生息状況調査 調査報告書	大宮市 みどり課 アジア航測株式会社	1995.3	大宮市	さいたま市みどり推進課
28	浦和市動植物調査報告書	アジア航測株式会社	1995.3	浦和市環境部生活環境課	さいたま市みどり推進課

表 2-1-2(2) 収集した文献資料一覧

対象地域	市町村名		収集年度
見沼田圃	さいたま市	見沼区、緑区、浦和区、大宮区、北区、	2009

収集文献 No.	文献名	著者名	発行年	発行元	入手先
29	浦和市自然誌 一身近な動植物	アジア航測株式会社	1996.3.31	浦和市環境部生活環境課	さいたますみどり推進課
30	自然をのこそう生き生き調査 報告書	岩槻市環境経済部環境保全課	2005.3	岩槻市環境経済部環境保全課	さいたますみどり推進課
31	地形図データ1/2500属性定義書	さいたま市 (株)パスコ	2009.3	さいたま市	さいたますみどり推進課
32	平成20年度固定資産 間データ整備業務1/6 共用空	さいたま市	2009.2	さいたま市	さいたますみどり推進課
33	平成20年度固定資産 間データ整備業務2/6 共用空	さいたま市	2009.2	さいたま市	さいたますみどり推進課
34	平成20年度固定資産 間データ整備業務3/6 共用空	さいたま市	2009.2	さいたま市	さいたますみどり推進課
35	平成20年度固定資産 間データ整備業務4/6 共用空	さいたま市	2009.2	さいたま市	さいたますみどり推進課
36	平成20年度固定資産 間データ整備業務5/6 共用空	さいたま市	2009.2	さいたま市	さいたますみどり推進課
37	平成20年度固定資産 間データ整備業務6/6 共用空	さいたま市	2009.2	さいたま市	さいたますみどり推進課
38	自然をのこそう生き生き調査 報告書	岩槻市環境経済部環境保全課	2005.3	岩槻市環境経済部環境保全課	さいたま市立中央図書館
39	見沼地域野生生物現況調査報告書	(財)埼玉県生態系保護協会	1993.3	埼玉県自然保護課	さいたま市立中央図書館
40	さいたま市博物館研究紀要 第7集	さいたま市立博物館 さいたま市立浦和博物館	2008.3.31	さいたま市立博物館 さいたま市立浦和博物館	さいたま市立中央図書館
41	天然記念物緊急調査報告	埼玉県教育委員会	1976.12.1	埼玉県教育委員会	さいたま市立中央図書館
42	浦和市自然環境保全検討調査 報告書概要版	アジア航測株式会社	1997.3	浦和市環境部	さいたま市立中央図書館
43	加田屋生き物だより	大宮市教育委員会	2000.3.27	大宮市教育委員会	さいたま市立中央図書館
44	見沼田圃土地利用基本計画 策定調査報告書	(財)埼玉総合研究機構	1986.3	埼玉県企画財政部地域政策課	さいたま市立中央図書館
45	さいたま市博物館研究紀要 第5集	さいたま市立博物館 さいたま市立浦和博物館	2006.3.31	さいたま市立博物館 さいたま市立浦和博物館	さいたま市立中央図書館
46	見沼田圃論集 第二集	埼玉県企画財政部地域政策課	1985.3.27	埼玉県企画財政部地域政策課	さいたま市立中央図書館
47	さいたま市エコ・マップ 未来に残していきたい自然	(財)埼玉県生態系保護協会/浦和支部・大宮支部	2007	(財)埼玉県生態系保護協会/浦和支部・大宮支部	さいたま市立中央図書館
48	埼玉県レッドデータブック 植物編	埼玉県環境防災部みどり自然課	2005.3	埼玉県環境防災部みどり自然課	埼玉県庁資料室
49	埼玉県レッドデータブック 2008動物編	埼玉県環境部みどり自然課	2008.3	埼玉県環境部みどり自然課	埼玉県庁資料室
50	関東ふれあいの道 埼玉県コース ルートマップ	埼玉県環境部みどり自然課	2002	埼玉県環境部みどり自然課	埼玉県庁資料室
51	埼玉の鳥とけものたち	埼玉県環境部自然保護課	1986.4	埼玉県県民部自治文化課	埼玉県庁資料室
52	平成20年度版 埼玉県環境白書	埼玉県環境部環境政策課	2008.12	埼玉県環境部環境政策課	埼玉県庁資料室
53	さいたま市大和緑地公園斜面林植生調査報告書	清水保典 谷山久子	2003	自然観察さいたまフレンド	自然観察さいたまフレンド
54	さいたま市大和緑地公園斜面林希少植物保護柵内植生調査報告書	谷山久子	2002	自然観察さいたまフレンド	自然観察さいたまフレンド

2) 聞き取り調査

見沼田圃地域に関する自然条件を整理するにあたっては、既往の現地調査結果報告書以外にも、見沼田圃周辺の自然環境に詳しい地元の有識者等にヒアリングを行い、自然環境の状況について情報を収集した。ヒアリング結果を表 2-2-1 に示す。

見沼田圃地域には、「見沼たんぼ」をテーマとしている様々な市民活動団体があり、ボランティア活動によって、斜面林などの雑木林や緑地の保全、動植物の調査、水質調査などを行っている。

聞き取り調査にあたっては、関係自治体や本調査対象地域の中で動植物の調査や保全に関わっている方々に情報提供のご協力を頂いた。

表 2-2-1 聞き取り調査結果一覧

	聞き取り先	主な聞き取り内容
1	埼玉県環境部自然環境課野生生物担当	調査対象地域における希少鳥類の生息状況についてヒアリングを行った。
2	埼玉県環境部みどり自然課鳥獣保護員	調査対象地域の自然環境や社会環境の状況、既存文献等についてヒアリングを行った。
3	さいたましみどり愛護会および NPO法人自然観察さいたまフレンド	大和田緑地公園における活動状況、調査の留意点等についてヒアリングを行った。また、植物を対象とした現地調査結果のデータを提供頂いた。
4	NPO法人見沼ファーム21	加田屋新田における活動状況についてヒアリングを行った。また、動植物を対象とした現地調査結果のデータを提供頂いた。
5	NPO法人見沼ホタル保存会	調査対象地域におけるホタルの生息状況、会の活動状況についてヒアリングを行った。
6	NPO法人見沼保全じゃぶじゃぶラボ	動植物を対象とした現地調査結果のデータを提供頂いた。

3) 社会条件の整理結果

(1) 位置

見沼田圃はさいたま市のほぼ中央部に位置し、約1,260haという広大な面積を持つ、首都近郊における貴重な大規模緑地空間である。東京から約30km、さいたま新都心駅や大宮駅などの主要駅から2~3kmという市街地近郊にありながら、たんぼや畑、雑木林、河川や見沼代用水によってつくられる田園風景と、生きものを育む豊かな自然が現在も残されていることが特徴である。

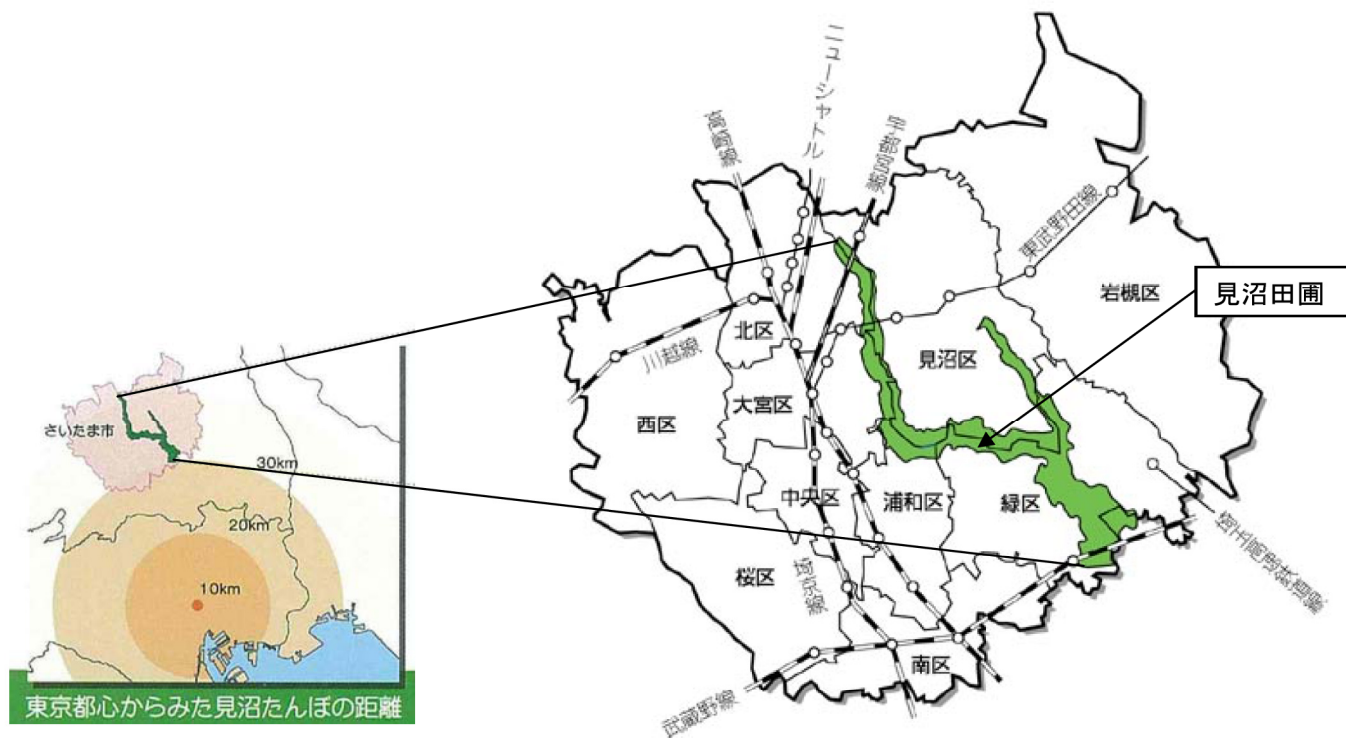


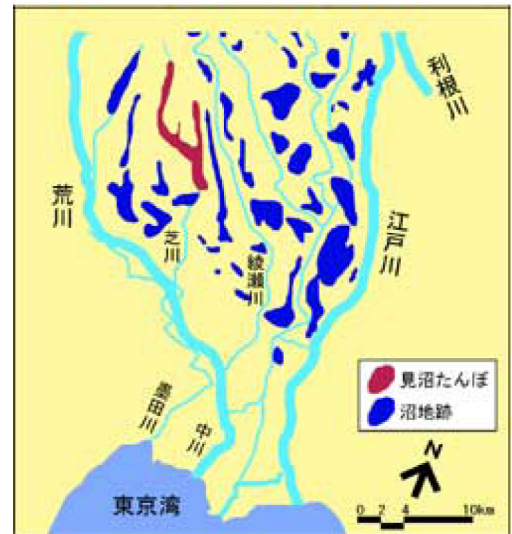
図 2-3-1 見沼田圃の位置

(2) 見沼田圃の歴史と環境の現状

①地形の成立（縄文時代）

見沼田圃の起源は縄文時代に遡る。縄文時代の海面は現在よりも高く、現在見沼たんぼのある地域は東京湾とつながる入江であり、旧浦和市域の3分の2が海底にあった。

その後、約6,000年前を境に海が後退し、入り江が東京湾と分離して、無数の沼・湿地が生まれ、現在の見沼田圃の地形ができあがった。



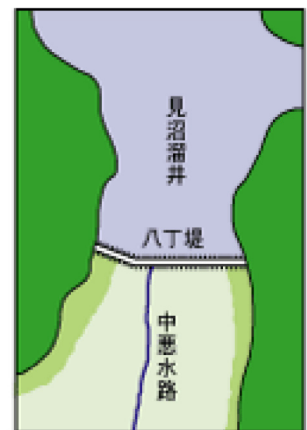
②「溜井」の時代（江戸時代初期）

江戸時代初期、徳川家康の命により利根川東遷と荒川の西遷が始まり、下流地域の水害の危険度は著しく低くなったが、その代わりに農業用水も不足するようになったので、貯水量を確保するために、伊奈忠治により見沼溜井が築造された。見沼溜井の築造は、

寛永6年（1629年）に、見沼南端の兩岸の距離が最も狭くなっているさいたま市の附島と、川口市の木曾呂との間に堤を築き、見沼への流入水を堰き止めることで行われた。この堤は長さが8町（約870m）あったことから、「八丁堤」と呼ばれている。こうして、用水を貯めるために周囲40数km、面積1,200haに及ぶ、平均水深1mの見沼溜井が完成した。



八丁堤が作られる前



八丁堤が作られた後

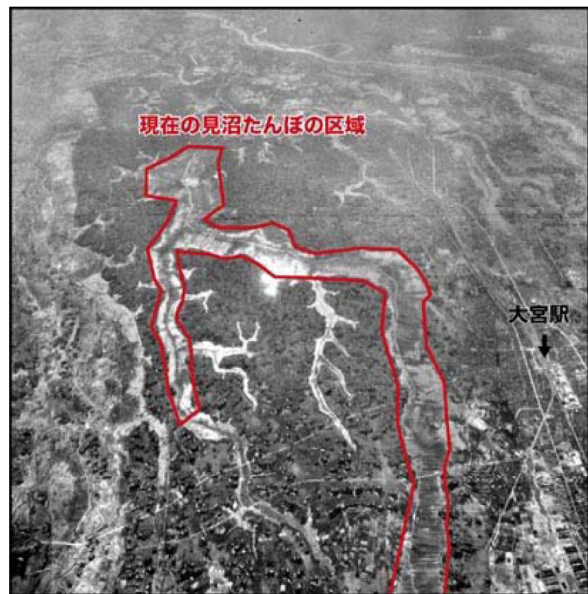
③「田圃」の時代（江戸時代中期～戦後）

江戸時代中期、享保 12 年（1727 年）に八丁堤を切って見沼溜井は干拓され、見沼田圃が生まれた。そして、干拓された見沼溜井の代わりとなる農業用水の確保のため、利根川から約 60 km に渡って用水が引かれ、見沼田圃の西縁と東縁の台地にそって水路が掘削され、農業用水が供給された。これが見沼代用水である。その後今日まで見沼田圃において稲作が行われており、特に戦後は食糧増産を支える貴重な農業生産の場となった。

1950 年代に入り、高度経済成長期をむかえると、一部で住宅や学校・道路など公共施設への土地利用の転換が行われるようになったが、昭和 33 年（1958 年）9 月に狩野川台風をきっかけに見沼たんぼの遊水機能が注目され、昭和 40 年（1965 年）には宅地化は原則として認めないとする「見沼三原則」が制定され、主に治水上の観点から開発抑制策が講じられるようになった。

その後、著しい都市化や営農環境の変化により斜面林も減少するなど、見沼田圃の土地利用が大きく変わり始め、耕作放棄地が増加し、建設残土等の投棄が行われるなど、土地利用の混乱もみられるようになった。

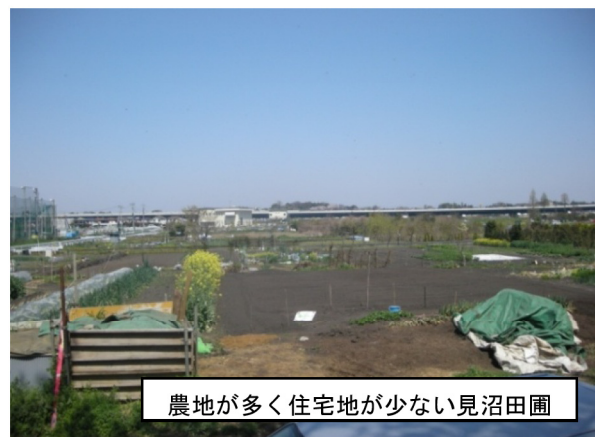
しかし、一方では首都近郊に残された数少ない大規模緑地空間として見沼田圃を保全していこうという動きが活発になり、平成 7 年（1995 年）4 月に、『見沼三原則』に代わる新たな土地利用の基準として『見沼田圃の保全・活用・創造の基本方針』が策定され、平成 10 年（1998 年）には、見沼田圃の保全を図るために、公有地化推進事業が始まった。



（以上、見沼たんぼ HP <http://www.minumatanbo-saitama.jp/>より抜粋・要約）

④見沼田圃の環境の現状

現在の見沼田圃の自然環境は、低地を流れる芝川と加田屋川、その両岸に広がる畑や水田などの農地、台地の端に沿って流れる西縁と東縁の見沼代用水、そして斜面林等からなる。全体として人為の影響が強い緑地であり、農地を中心とした多様な土地利用がみられるが、住宅地は少ない。



その一方で、かつての自然環境の名残といえるものも多く残されており、大和田緑地公園特別緑地保全地区をはじめとする斜面林では、かつての里山の構成種である貴重な動植物等が確認されている。この斜面林は見沼代用水等とともに見沼田圃の環境を特徴づける要素であり、地形の平坦な都市部のさいたま市において開発により失われやすい樹林が、谷戸地形に沿って、ある程度まとまった面積で残存しているという点で貴重なものであるといえる。



見沼田圃の谷戸地形に沿って残存する斜面林